

言葉の学習6

テレワーク リモートワーク

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、緊急事態宣言が発令され、活動や移動の自粛・制限がされました。また、オリンピック・パラリンピック等も延期となりました。解除後は、マスク着用や手指の消毒等、三密を避けるための手段やソーシャル・ディスタンス、テレワークにリモートワーク（※1）など、新しい生活スタイルが浸透中です。学びの場では、タブレット等を使用しての授業等も行われる時代となってきました。

そして、2016年に働きやすさや、経営戦略として導入された「働き方改革」が、コロナ禍により、さらに進むこととなりました。

※1

- テレワーク [tele = 離れた場所] [work = 働く]
 - 場所や時間にとらわれない柔軟な働き方、在宅勤務
 - 情報通信技術 (ICT) を利用した働き方
 - 雇用型
 - モバイルワーク (場所を選ばず仕事が可能。施設に頼らない)

- リモートワーク [remotework = 遠くで働く]
 - 遠隔勤務・サテライトオフィスなど、通常とは異なる
 - オフィスで働く遠隔会議も開催可能 (情報技術を活用し、会わずに会議を開催する)



〜 男女共同参画川柳 寄稿 〜
 頼もしさ 優しさこもる 男メシ (飯)
 コロナ禍で 格差つくらぬ マスク顔
 孝子 美代子

総会なき地域活動について

新型コロナウイルスという未知の病によって、私たちの生活様式が従来通りにはならず、大きく変わりました。

私たちの地域でも、総会や伝統ある行事やイベント等の開催は、再度の議論・検討を行いました。安全・安心第一の観点で自粛の形となりました。

先の見えない不安の中、三密を避ける工夫がされる様になると、小さな総会や会議等は徐々に開催され始め、久方ぶりの会場では、人が集えることの大切さ、有難さ、幸せと思えることを、再認識したのではないのでしょうか？

緊急事態宣言解除後、市男女共同参画推進会議あかしな支部では、6月5日午前中、明科支所駐車場内のコンテナ花壇の花植えをしました。2月実施の「ケ・セラ」コンサートの収益金を利用して、綺麗な花で癒しの地域にするべく、花壇づくりを企画提案。明科支所からは「アルプス花街道」のマリーゴールドが提供され、緊急事態宣言解除のすぐ後で会員の参加が危ぶまれる中、会員13名と支所職員6名が集まりました。思わぬ大勢の参加となり、定植作業も短時間で終える事ができました。

今後の総会やイベント等については、感染の度合いを見て開催の予定です。



湧 愛

YOU & I

編集・監修・発行
 安曇野市男女共同参画推進会議
 安曇野市男女共同参画コミュニケーター
 安曇野市
 事務局：安曇野市人権男女共同参画課
 電話：(0263) 71-2000 (代)
 FAX：(0263) 71-5155



市制施行15周年 男女共同参画の推進にむけて

宮澤 宗弘 市長

市制施行15周年を迎え、節目の年となりました。

本年度は、新型コロナウイルスの感染症対策に始まり、7月には大雨による被害もあり、皆さまにおかれましても落ち着いた日々をお過ごしかと存じます。

この広報紙「湧愛」という名前に込められております、清らかな水が湧き出るように、人と人とのふれあいや思いやりが湧き出るような、優しい関わりがこのように大切だと感じております。

本市は、平成20年12月に安曇野市男女共同参画条例を制定し、平成30年3月には、いわゆる女性活躍推進法を新たに加えた「第3次安曇野市男女共同参画計画」を策定しました。この計画に沿い、各分野において男女共同参画社会づくりに向けた取組みがされております。取組みには、男女共同参画コミュニケーターをはじめ、市民団体の安曇野市男女共同参画推進会議の皆様にもご協力をいただいております。この場をお借りし感謝申し上げます。

人口減少社会を迎えた現在、女性の活躍が益々求められております。また、若い世代が将来を考え自分のライフスタイルを考える機会も大切だと感じます。すべての人が活躍できる社会には、家庭環境ばかりではなく、職場や地域の意識づくりも必要になります。

市制15周年を迎え、安曇野市が多様性を認め、豊かで活力あふれる地域になるよう、市民の皆様のお力もいただきながら、取り組んで参りたいと思います。

～目次～

- 1頁 ◆市制施行 15周年
男女共同参画の推進にむけて
- 2頁 ◆新しい生活様式と防災
- 3頁 ◆育メン・家事メン
フォトコンテスト
◆地域を照らす
- 4頁 ◆言葉の学習
◆男女共同参画川柳 ◆つなぐ



「新しい生活様式」と防災

コロナ禍を通して、生活様式の見直しが話題になっています。いつ発生するか分からない災害に対して、各自が事前に、感染症対策なども考慮した「新しい生活様式」を認識しておくことが求められます。

従来の避難所は「限られた空間」にたくさんの避難者が集まるというスタイルでした。しかし、新型コロナウイルスの感染防止のためには、「三密（密閉・密集・密接）」を避けることが出来なければ、避難所は「クラスター（感染者集団）」になり感染拡大の場所になってしまいます。

災害発生時の避難所はどうあるべきか、改めて考えていく必要があります。最近「みなし避難所」「分散避難」という言葉が使われるようになってきました。災害に強い建物・自宅・親戚縁者の家・宿泊施設・自家用車等は新しい避難所として検討されています。

しかし、公の避難所ではない場所へ避難する場合、デメリットもあります。それは、①情報が入りにくい ②支援の手が届かない ③孤立しがちで自分の状態に気づきにくい などです。これらは、関連死に結びつく事もあり、リスクを伴います。

危険をいかに避けるかは、「自分の身は自分で守る」事でもあります。日頃から ①防災マップの確認 ②危険レベルの認識 ③避難はどこにするか ④非常時の必要物品の備蓄 ⑤情報収集の方法を整える等、危機意識を家族と共有しておくことが必要です。また、災害に対し「マイ・タイムライン」(※1) という時系列に整理して備える方法もあります。下に紹介しますので、家族と相談する際の参考としてみて下さい。

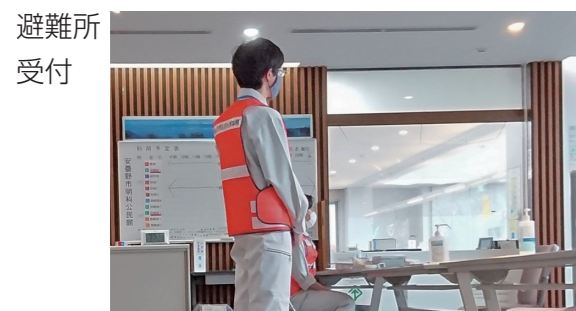
安曇野市でも7月に大雨により、自主避難した方がいます。「広報あづみの」で紹介された、危機管理課からの感染症対策の視点を取り入れた、避難行動について少し触れます。避難の際は、①毛布・マスク・体温計・消毒液の携行をする ②避難所では人との距離を取る ③感染症予防策をとる（手洗い・アルコール消毒・咳エチケット・定期的な検温・換気など） また、体調不良時の避難は別室になる等、配慮をしますが、スペースの都合などで対応できない場合もある事を理解して、避難をお願いします。とのことでした。

避難所運営には、これまでも感染症対策はされてきました。しかし、新しい生活様式が求められる昨今、今まで以上に配慮が必要となります。様々な情報の中から、正しい情報か？を判断し、思いやりのある行動をする事も求められます。生活の制限もありストレスを抱える事も多いと考えますが、人権は守られなくてはなりません。非常時だからこそ助け合う姿勢が大切だと感じます。

※1 マイ・タイムライン

災害発生の可能性のある時に、自分がとるべき行動を時系列で整理して「避難行動予定表」を作る

- ステップ1 住んでいる地区の災害リスクを知る
- ステップ2 避難所・経路を調べる
- ステップ3 避難合図を決める
- ステップ4 災害発生前後の情報収集方法を調べる
- ステップ5 自分の行動を考えたマイ・タイムラインを作る



避難所 受付



段ボール ベット

第1回 育メン・家事メンフォトコンテスト

安曇野市では、6月23日から29日までの男女共同参画週間に合わせフォトコンテストを開催しました。男性の家事育児の参加、性別による固定的な役割分担意識を拭うため、市内の男性を対象に、実際に家事育児を楽しんでいる写真を募集しました。

9作品が寄せられ市民投票を実施し、その後審査委員による審査を経て3作品が受賞しました。どの作品も、見ている側が笑顔になる作品ばかりでした。作品を撮影したエピソードと共に、入賞作品を掲載します。

市民投票賞

「楽しい入浴タイム」

江原 芳英さん
子どものお風呂は手が大きいお父さんの担当でした。この写真は、私が育児休暇をとっていた時のものです。



審査委員長賞「おひざだっこ」

室賀 真智子さん

朝ごはんの後のゆったりした時間パパのおひざで、ご機嫌な3男です。2人の表情がとてもよかったですので写真をとりました。



育メン・家事メン賞

「朝飯前」のお手伝い

山田 小梅さん



たまに父が、朝食に卵焼きを焼いてくれます。おいしいので売ればいいと思います。この日は弟妹で奪い合い、卵を割ってしまいました。2人で、卵をふたつずつ割って喜んでいました。その日の卵焼きもおいしかったです。

地域を照らす

安曇野市豊科近代美術館 友の会

梅雨にぬれたバラと欧風の建物がよく似合う豊科近代美術館を訪れ、「友の会」会長、斎藤康子さんに話を伺いました。

美術館の協力外部団体として、平成4年の開館直後に結成された「友の会」は、美術館の教育普及などの文化活動を支援すると共に、各種の自主活動を行い、会員の教養、親睦、交流を深めているとの事です。

事業としては、講習会、研修旅行、コンサート、絵画教室、読書会、手仕事クラブ、環境美化活動があげられます。その中で、今回バラ園を中心とした環境美化についてお聞きしました。

美術館の庭園には、手入れが行き届き美しく咲いているバラ園があります。本年度は、コロナの影響で20回目を数えるバラ祭りも、楽しみにしていた日展も中止となりました。美術館職員の方と「友の会」のボランティアの方と、バラの管理について、相互に勉強しあい、愛情をこめて手入れに励んでいます。この日も雨にもかかわらず、楽しそうに作業をしている会員の姿がありました。

市民の皆さんにも、「大いにバラ園に親しんでもらい、また美術館友の会の活動を知っていただき、より多くの人に芸術作品にも触れ身近に感じて欲しいです。一緒に楽しみませんか！」と話されていました。